

発行者	兵庫県農業共済組合穴粟事務所	(0790) 60-3004
連絡先	龍野農業改良普及センター	(0791) 63-5174
	穴粟市 農業振興課	(0790) 63-3109
	ハリマ農業協同組合	
	営農経済センター	(0790) 72-1235

令和5年

水稻病害虫防除情報

第2号（7月26日発行）

1 水稻の生育状況・病害虫発生状況

向こう1ヶ月の天候（7/25～）は、平均気温の高い確率が60%と見込まれています。降水量については、平年並と予想されています。（1か月予報 大阪管区気象台 7月20日発表）。

▶農業技術センターにおける生育調査結果

品種（調査地点）	調査日	草丈（平年比）	茎数（平年比）	主稈葉数（平年差）	移植日
コシヒカリ（朝来市）	7/14	79cm(97%)	548本/m ² (105%)	12.9(+0.5)	5/10
キヌヒカリ（加西市）	7/14	74cm(101%)	393本/m ² (103%)	11.5(+0.3)	6/1
ヒノヒカリ（加西市）	7/14	48cm(102%)	353本/m ² (88%)	10.6(+0.3)	6/15

▶病害虫調査結果（7月25日調査）北部地区

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	各所で病斑が見られました。
紋枯病	各所で病斑が見られました。
縞葉枯病	今回の調査では確認されていません。
ウンカ類	各地で少量の発生を確認しました。
ツマグロヨコバイ	一部で少量の発生を確認しました。
カメムシ類	今回の調査では確認されていません。

2 調査結果詳細

令和5年度 第2回

水稻病害虫発生状況調査 結果一覧表

調査日:令和5年7月25日 天候:晴

調査地区名	作付品種	田植日	病害(抽出25株中の発病株数)								害虫発生状況					その他 箱施用剤 有・無
			葉いもち		穂いもち		紋枯病		縞葉枯病		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	カメムシ	
			発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	
中比地	ヒノヒカリ	6/1											少			有
矢原	ヒノヒカリ	5/24													少	有
宇野	キヌヒカリ	5/13					11株	少								有
青木	コシヒカリ	5/25					3株	少								有
葛根	コシヒカリ	5/28	12株	少								少			少	有
西深	コシヒカリ	5/14										少				有
杉田	コシヒカリ	5/15	17株	中			2株	少				少				有
谷	コシヒカリ	5/15	3株	少			5株	少			少		少			有
西山	コシヒカリ	5/13	1株	少			1株	少								有

※ 発生程度は、無、少、中、多、甚の5段階評価です。

(病気の発生程度は病斑の進行具合により評価しています。)

3 病害虫について

●いもち病

前回の調査から、いもち病の発生が確認されています。 本年は平年より1日早く梅雨明けしました。葉いもちの上位葉への進展により、穂いもちの発生が懸念されます。特に葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所は、注意深く観察し、発生している場合は、栽培ごよみ等を参考に防除を実施しましょう。

●紋枯病

今回の調査で、紋枯病の発生が確認されました。

気温の高い日が続くと、紋枯病が拡がりやすくなります。特に例年発生しているほ場や過繁茂の水田では畔際の株元等を注意深く観察しましょう。

●トビイロウンカ

収穫前に坪枯れを引き起こすトビイロウンカの発生は確認されていません。兵庫県病害虫防除所の予報でも確認されていませんが、増殖を見逃さないようにこまめに株元を中心に見回り、適期防除を心がけましょう。

●斑点米カメムシ類

今回の調査から、南部地域でカメムシ類の発生が確認されています。兵庫県病害虫防除所の予報でも、7月以降の発生が確認されており、例年に比べやや多いと予想されています。

斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。水田周辺の畦畔等の草刈りは出穂期までに終わることが重要です。なお、出穂直前と出穂後の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込み、逆効果となる場合があるので注意が必要です。多発している場合は、穂揃期以降に防除を行いましょう。

4 有効な薬剤等

《臨機防除薬剤》

対象病害虫	薬剤名	散布適期
いもち病	ブラシン粉剤DL	生育期～出穂前、出穂前～穂ぞろい期
カメムシ類	スタークル豆つぶ	出穂時～収穫7日前

☆薬剤は使用量等登録内容の確認を十分行い、適切にご使用ください。

※薬剤に関する詳細は、龍野農業改良普及センター、ハリマ農業協同組合までお問い合わせください。

5 今後の管理

(1)水管理

・乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、出穂後は間断灌水を行いましょう。根の活力維持のため、水の溜めっ放し又は極端な圃場の乾燥がないように注意してください。

農薬の飛散防止に努めましょう。作業中の熱中症対策を忘れずに！

次回調査予定 8月22日です